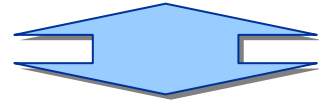


都市の現状から見た課題の整理

時代の潮流、現況の把握、上位・関連計画の把握、市民意向の把握を踏まえ、都市の現状から見た課題を以下のとおり整理します。

□ 時代の潮流 [A]

- 人口減少・少子高齢社会への対応
- 安全・安心な都市・施設づくりへの対応
- 交流人口の拡大への対応
- 環境にやさしい都市の構築
- 持続可能な都市経営への転換
- 地方創生、多様な主体による協働のまちづくりへの対応



□ 現況の把握

【地勢・沿革】[B]

- 平成 17 年に旧糸魚川市、旧能生町、旧青海町の合併により誕生
- 北は日本海に面する海岸、中部山岳国立公園等の山岳、渓谷、温泉など変化に富んだ個性豊かな自然に恵まれる
- 平成 21 年に「糸魚川ジオパーク」が日本初の世界ジオパークに認定

【人口】[C]

- 人口は減少し、1 世帯当たり人口は 3.15 人/世帯(H7)から 2.64 人/世帯(H27)と小世帯化や核家族化が進行
- 地域別では、能生地域の減少率が最も顕著
- 年齢別では、高齢化が進み、子どもや働き手である若者の減少が顕著
- 人口動態は、出生数の減少、転出超過が顕著で、流出・流入では上越市、富山県新川地域との関係性が強い

【産業】[C]

- 産業分類別就業者構成比では、第 1 次及び第 2 次が減少、第 3 次が増加し、第 3 次は過半数
- 農業、漁業、商業は衰退傾向、工業は事業所・従業者が減少し製造品出荷額等が増加傾向

【法適用状況】[D]

- 糸魚川都市計画区域は 9,529.0ha (行政区域面積の 12.8%)、非線引き用途地域は 1,048.7ha で、県平均より工業系用途地域の面積割合が高い

【土地利用・都市施設整備状況】[D]

- 土地利用は、山林が約 6 割である一方、用途地域内では住宅地・工業地ともに約 2 割を占める
- 農地転用は、住宅・商業は用途地域内、工業は用途地域外に多い
- 国道 8 号糸魚川東バイパスの整備が進められている (平成 27 年 5 月、大和川～押上間の開通)
- 都市計画道路は 21 路線、整備率は約 8 割と高い
- 平成 27 年 3 月 14 日、北陸新幹線が開通し、糸魚川駅 (新幹線駅) が開業
- 都市公園は 33 箇所 (うち計画決定 15 箇所)、1 人あたり都市公園面積は 19.9 ㎡
- 下水道の普及率は 81.2%、水洗化率は 95.8% と高い

□ 上位・関連計画の把握 [E]

【新潟県「夢おこし」政策プラン】(新・総合計画策定中)

- 基本理念：将来に希望の持てる魅力ある新潟県の実現
—住んでみたい新潟、行ってみたい新潟—

【上越圏域広域都市計画マスタープラン】

- 圏域の目標：新たな高速交通体系と地域資源を活かした交流圏域

【糸魚川都市計画区域マスタープラン】

- 都市づくりの目標：○都市機能の誘導と広域交通ネットワークを活かした交流の促進
○特徴的な自然環境の保全と活用
○災害に対して安全・安心に暮らせる都市

【第 2 次糸魚川市総合計画】

- 目標とする都市像：翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち

【第 2 次国土利用計画 (糸魚川市計画)】

- 市土の基本理念：公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、地域の社会的、経済的及び文化的な条件に配慮するとともに、安全かつ健康で文化的な生活環境の確保と市土の持続可能な均衡ある発展を図る

【糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- 総合戦略の基本目標：○(か) 稼げる資源循環のまちづくり
○(ち) 地域を担う人財が集うまちづくり
○(ゆ) 夢を叶えて若者や女性が輝くまちづくり
○(く) 暮らしやすさで安心・元気なまちづくり

【糸魚川市地域公共交通網形成計画】

- 計画が目指す姿：市民、交通事業者、市が協働し、
地域の实情に即した持続可能な地域公共交通

【糸魚川市駅北復興まちづくり計画】

- 復興まちづくりの目標(キャッチフレーズ)：
カタイ絆で よみがえる 笑顔の街道 糸魚川

【いといがわ交通ネットワークビジョン】

- 交通ネットワークの目標：「ひと」「もの」の交流促進による
「産業の活性化」と「安心な暮らしの向上」

【糸魚川市公共施設等総合管理指針】

- 社会情勢の変化に応じた適正配置、マネジメントによる効率的・効果的な管理、長寿命化、財政負担の軽減・標準化

【糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト】

- ふるさと糸魚川を知り・学び・発見することによって、ふるさとの価値を再認識する
- ふるさと糸魚川の価値を守り、活かし、伝えることによって、ふるさとへの愛着と誇りを醸成する
- ふるさと糸魚川を磨き上げ、国内外に発信することによって、交流人口の拡大を図り、持続可能な発展を目指す

□ 市民意向の把握 [F]

【市民アンケート調査結果】

- 糸魚川市に関する印象では、「豊かな自然」、「ふるさとへの愛着」、「地域の清潔感」に対しては評価が高く、「働く場」、「物価」、「医療体制」、「買い物の便」、「交通の便」に対しては評価が低い
- 住みよさでは、「住みよい」と思う市民が約 5 割と多いが、住みよさを実感できていない市民も多数
- 定住意向は、住み続けたいと思う市民が約 7 割と多数
- 施策の満足度・重要度では、「下水道などの生活排水処理施設の整備」、「学校教育施設の整備・充実」は高く、「新規企業の誘致」、「空き家安全管理の推進」、「移住やリターン、地元定着の促進」、「鉄道やバスなどの利便性の向上」は重要度が高いものの満足度は低い
- 現在の土地利用における問題点では、中心市街地の賑わいの喪失、買物の不便さなどの商業に関する問題や、農地の荒廃などの問題点を挙げる市民が多数
- これからの土地利用の規制のあり方では、新たな開発地区を明確に位置づけながら、自然環境などと都市環境の調和を求める市民が多数
- 土地利用については、市街地内の未利用地の有効活用、自然環境の保全・活用を重要とする市民が多数
- 住宅地域の整備では、生産・消費によるフロー型から空き家などを有効活用するストック型への転換、既存住宅の周辺環境の向上を求める市民が比較的多い
- 商業地域の整備では、既存商店街の活性化を求める市民が最多だが、幹線道路沿道への商業・業務機能の誘導を求める市民も多数
- 工業用地の整備では、既存の産業団地への誘導により、新たな産業団地の整備は強く求められていないが、判断に迷う市民も多数
- 農地のあり方では、農地の集約化を求める市民が多いほか、農地の観光・交流等への活用も要望
- 山林のあり方では、森林機能を活かした自然資源としての活用、自然環境を活かした観光・レクリエーションの場としての活用を求める市民が多数

【中学生アンケート調査結果】

- 糸魚川市に関する印象では、「豊かな自然」、「地域の清潔感」、「ふるさとへの愛着」に対しては評価が高く、「買い物の便」、「働く場」、「交通の便」に対しては評価が低い
- 暮らしやすさでは、「暮らしよい」と思う中学生が約 7 割と多数
- 定住意向では、将来的な定住意向(住み続けたい、戻ってきて住みたい)としては約 4 割

※上記の結果は、「第 2 次糸魚川市総合計画」の策定にあたり平成 27 年 9 月に実施された市民アンケート (15 歳以上) 及び中学生アンケート (中学 3 年生) の結果から都市計画に関連する内容を活用したものである。

糸魚川市都市計画マスタープラン見直しについて

【糸魚川市の現状まとめ】

【時代の潮流【A】】

- 人口減少・少子高齢化社会への対応
- 安全・安心な都市・施設づくりへの対応
- 交流人口拡大への対応
- 環境にやさしい都市の構築
- 持続可能な都市経営への転換
- 地方創生、多様な主体による協働のまちづくりへの対応

【地勢・沿革【B】】

- 3市町の合併（H17）
- 自然環境や温泉など変化に富んだ資源、「糸魚川ジオパーク」の世界ジオパーク認定（H21）

【人口・産業【C】】

- 人口は減少し、高齢化や若年層の減少が顕著、小世帯化や核家族化が進行
- 地域別では能生地域の減少率が最も顕著
- 出生数の減少、転出超過が顕著、流入流出では上越市、富山県新川地域との関係性が強い
- 農業、漁業、商業は衰退傾向、工業は事業所・従業者が減少し製造品出荷額等が増加傾向

【法適用状況・土地利用・都市施設整備状況【D】】

- 都市計画区域は行政区域の12.8%、用途地域は行政区域の1.4%で県平均より工業系用途地域面積比が高い
- 土地利用は山林が約6割、用途地域内では住宅地・工業地ともに約2割
- 農地転用は、住宅・商業は用途地域内、工業は用途地域外に多い
- 都市計画道路や幹線道路、下水道、都市公園などのインフラ整備率は高い
- 北陸新幹線が開通し、糸魚川駅（新幹線駅）が開業（H27）

【上位・関連計画の把握【E】】

- 新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- 糸魚川都市計画区域マスタープラン
- 第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- 糸魚川市地域公共交通網形成計画
- いといがわ交通ネットワークビジョン
- 糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト
- 上越圏域広域都市計画マスタープラン
- 第2次糸魚川市総合計画
- 糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 糸魚川市駅北復興まちづくり計画
- 糸魚川市公共施設等総合管理指針

【市民意向の把握【F】】

- 自然等に代表される住みよさから5割が「住みよい」と回答している一方で、就労、医療、商業、交通の評価が低く、住みよさを実感できていない市民も多数（定住意向は市民の約7割）
- インフラ整備、学校教育施設整備は満足度・重要度が高い
- 企業誘致、空家管理、移住やUターン、地元定着の促進、公共交通の利便性向上に関しては重要度が高いものの、満足度が低い
- 土地利用の問題点では、中心市街地の賑わい喪失、買い物の不便さ、農地の荒廃などが多い
- 土地利用規制に関しては、新たな開発地区の明確化、自然環境と都市環境の調和を求める声が多い
- 土地利用では、市街地内未利用地の有効活用、自然環境の保全を重視
- 住宅の生産、消費によるフロー型から空家等の有効活用などストック型への転換を重視
- 既存商店街の活性化を求める声が多だが、幹線道路沿道への商業業務機能の誘導を求める声も多い
- 既存産業団地への誘導による工業振興を求める声が多い
- 農業に関しては、農地の集約化を求める声が多く、農地の観光・交流への活用への要望もある
- 森林機能を活かした自然環境の活用、観光・レクリエーションの場としての活用を求める声が多い
- 中学生の評価も同様であるが、約7割が暮らしよいくと感じる傾向が強い
- 将来的な定住意向（住み続けたい、戻ってきて住みたい）としては約4割

課題につながる糸魚川市の現状まとめ（抜粋）

※現状まとめの抜粋箇所は、「課題1」と特に関係性が高いものを示す

【時代の潮流【A】】

- 人口減少・少子高齢化社会への対応
- 持続可能な都市経営への転換
- 地方創生、多様な主体による協働のまちづくりへの対応

【人口・産業【C】】

- 人口は減少し、高齢化や若年層の減少が顕著、小世帯化や核家族化が進行
- 地域別では能生地域の減少率が最も顕著
- 出生数の減少、転出超過が顕著、流入流出では上越市、富山県新川地域との関係性が強い

【法適用状況・土地利用・都市施設整備状況【D】】

- 都市計画区域は行政区域の12.8%、用途地域は行政区域の1.4%で県平均より工業系用途地域面積比が高い
- 農地転用は、住宅・商業は用途地域内、工業は用途地域外に多い
- 都市計画道路や幹線道路、下水道、都市公園などのインフラ整備率は高い
- 北陸新幹線が開通し、糸魚川駅（新幹線駅）が開業（H27）

【上位・関連計画の把握【E】】

- 新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- 糸魚川都市計画区域マスタープラン
- 第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- 糸魚川市地域公共交通網形成計画
- 上越圏域広域都市計画マスタープラン
- 第2次糸魚川市総合計画
- 新糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- いといがわ交通ネットワークビジョン

【市民意向の把握【F】】

- 土地利用の問題点では、中心市街地の賑わい喪失、買い物の不便さ、農地の荒廃などが多い
- 土地利用規制に関しては、新たな開発地区の明確化、自然環境と都市環境の調和を求める声が多い
- 土地利用では、市街地内未利用地の有効活用、自然環境の保全を重視

都市の現状から見た課題

【課題1】コンパクトシティの形成と交通ネットワークによるまちづくり

- ◇ 人口減少や少子高齢社会に対応し、都市機能を集約したコンパクトシティの形成
〔A、C、D、E、F〕
- ◇ 住み慣れた集落地における生活拠点を核とした快適に暮らせる地域の形成
〔A、C、D、E、F〕
- ◇ 都市間や都市内を連絡する交通ネットワークの強化・充実
〔A、C、D、E、F〕

※都市の現状から見た課題について、

〔A〕：時代の潮流、〔B〕：地勢・沿革、〔C〕：人口・産業、〔D〕：法適用状況、土地利用・都市施設整備状況
〔E〕：上位・関連計画、〔F〕：市民意向 に関する課題

※糸魚川市の現状まとめの赤字箇所は、「課題1」と特に関係性が高いものを示す

※上位・関連計画の把握について、「新潟県「夢おこし」政策プラン」から「第2次国土利用計画」は全ての課題に関わるものである

糸魚川市都市計画マスタープラン見直しについて

【糸魚川市の現状まとめ】

【時代の潮流【A】】

- 人口減少・少子高齢化社会への対応
- 安全・安心な都市・施設づくりへの対応
- 交流人口拡大への対応
- 環境にやさしい都市の構築
- 持続可能な都市経営への転換
- 地方創生、多様な主体による協働のまちづくりへの対応

【地勢・沿革【B】】

- 3市町の合併（H17）
- 自然環境や温泉など変化に富んだ資源、「糸魚川ジオパーク」の世界ジオパーク認定（H21）

【人口・産業【C】】

- 人口は減少し、高齢化や若年層の減少が顕著、小世帯化や核家族化が進行
- 地域別では能生地域の減少率が最も顕著
- 出生数の減少、転出超過が顕著、流入流出では上越市、富山県新川地域との関係性が強い
- 農業、漁業、商業は衰退傾向、工業は事業所・従業者が減少し製造品出荷額等が増加傾向

【法適用状況・土地利用・都市施設整備状況【D】】

- 都市計画区域は行政区域の12.8%、用途地域は行政区域の1.4%で県平均より工業系用途地域面積比が高い
- 土地利用は山林が約6割、用途地域内では住宅地・工業地ともに約2割
- 農地転用は、住宅・商業は用途地域内、工業は用途地域外に多い
- 都市計画道路や幹線道路、下水道、都市公園などのインフラ整備率は高い
- 北陸新幹線が開通し、糸魚川駅（新幹線駅）が開業（H27）

【上位・関連計画の把握【E】】

- 新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- 糸魚川都市計画区域マスタープラン
- 第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- 糸魚川市地域公共交通網形成計画
- いといがわ交通ネットワークビジョン
- 糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト
- 上越圏域広域都市計画マスタープラン
- 第2次糸魚川市総合計画
- 糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 糸魚川市駅北復興まちづくり計画
- 糸魚川市公共施設等総合管理指針

【市民意向の把握【F】】

- 自然等に代表される住みよさから5割が「住みよい」と回答している一方で、就労、医療、商業、交通の評価が低く、住みよさを実感できていない市民も多数（定住意向は市民の約7割）
- インフラ整備、学校教育施設整備は満足度・重要度が高い
- 企業誘致、空家管理、移住やUターン、地元定着の促進、公共交通の利便性向上に関しては重要度が高いものの、満足度が低い
- 土地利用の問題点では、中心市街地の賑わい喪失、買い物不便さ、農地の荒廃などが多い
- 土地利用規制に関しては、新たな開発地区の明確化、自然環境と都市環境の調和を求める声が多い
- 土地利用では、市街地内未利用地の有効活用、自然環境の保全を重視
- 住宅の生産、消費によるフロー型から空家等の有効活用などストック型への転換を重視
- 既存商店街の活性化を求める声が多だが、幹線道路沿道への商業業務機能の誘導を求める声も多い
- 既存産業団地への誘導による工業振興を求める声が多い
- 農業に関しては、農地の集約化を求める声が多く、農地の観光・交流への活用への要望もある
- 森林機能を活かした自然環境の活用、観光・レクリエーションの場としての活用を求める声が多い
- 中学生の評価も同様であるが、約7割が暮らしよいと感じる傾向が強い
- 将来的な定住意向（住み続けたい、戻ってきて住みたい）としては約4割

課題につながる糸魚川市の現状まとめ（抜粋）

※現状まとめの抜粋箇所は、「課題2」と特に関係性が高いものを示す

【時代の潮流【A】】

- 環境にやさしい都市の構築
- 交流人口拡大への対応
- 地方創生、多様な主体による協働のまちづくりへの対応

【地勢・沿革【B】】

- 3市町の合併（H17）
- 自然環境や温泉など変化に富んだ資源、「糸魚川ジオパーク」の世界ジオパーク認定（H21）

【人口・産業【C】】

- 人口は減少し、高齢化や若年層の減少が顕著、小世帯化や核家族化が進行

【法適用状況・土地利用・都市施設整備状況【D】】

- 土地利用は山林が約6割、用途地域内では住宅地・工業地ともに約2割
- 北陸新幹線が開通し、糸魚川駅（新幹線駅）が開業（H27）

【上位・関連計画の把握【E】】

- 新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- 糸魚川都市計画区域マスタープラン
- 第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- 上越圏域広域都市計画マスタープラン
- 第2次糸魚川市総合計画
- 糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト

【市民意向の把握【F】】

- 土地利用規制に関しては、新たな開発地区の明確化、自然環境と都市環境の調和を求める声が多い
- 森林機能を活かした自然環境の活用、観光・レクリエーションの場としての活用を求める声が多い
- 中学生の評価も同様であるが、約7割が暮らしよいと感じる傾向が強い
- 将来的な定住意向（住み続けたい、戻ってきて住みたい）としては約4割

都市の現状から見た課題

【課題2】豊かな自然環境と美しい街並みを活かした魅力的なまちづくり

◇ 海岸、河川、山並みなどの豊かな自然環境の保全 [A、B、E、F]

◇ 市民が誇りと愛着を抱く、美しさと風情のある街並みの形成 [D、E、F]

◇ 地域の自然、歴史・文化、観光資源を守り、活かした都市の魅力向上 [A、C、E]

※都市の現状から見た課題について、

[A]：時代の潮流、[B]：地勢・沿革、[C]：人口・産業、[D]：法適用状況、土地利用・都市施設整備状況
[E]：上位・関連計画、[F]：市民意向 に関する課題

※糸魚川市の現状まとめの赤字箇所は、「課題2」と特に関係性が高いものを示す

※上位・関連計画の把握について、「新潟県「夢おこし」政策プラン」から「第2次国土利用計画」は全ての課題に関わるものである

糸魚川市都市計画マスタープラン見直しについて

【糸魚川市の現状まとめ】

【時代の潮流【A】】

- ・人口減少・少子高齢化社会への対応
- ・安全・安心な都市・施設づくりへの対応
- ・交流人口拡大への対応
- ・環境にやさしい都市の構築
- ・持続可能な都市経営への転換
- ・地方創生、多様な主体による協働のまちづくりへの対応

【地勢・沿革【B】】

- ・3市町の合併（H17）
- ・自然環境や温泉など変化に富んだ資源、「糸魚川ジオパーク」の世界ジオパーク認定（H21）

【人口・産業【C】】

- ・人口は減少し、高齢化や若年層の減少が顕著、小世帯化や核家族化が進行
- ・地域別では能生地域の減少率が最も顕著
- ・出生数の減少、転出超過が顕著、流入流出では上越市、富山県新川地域との関係性が強い
- ・農業、漁業、商業は衰退傾向、工業は事業所・従業者が減少し製造品出荷額等が増加傾向

【法適用状況・土地利用・都市施設整備状況【D】】

- ・都市計画区域は行政区域の12.8%、用途地域は行政区域の1.4%で県平均より工業系用途地域面積比が高い
- ・土地利用は山林が約6割、用途地域内では住宅地・工業地ともに約2割
- ・農地転用は、住宅・商業は用途地域内、工業は用途地域外に多い
- ・都市計画道路や幹線道路、下水道、都市公園などのインフラ整備率は高い
- ・北陸新幹線が開通し、糸魚川駅（新幹線駅）が開業（H27）

【上位・関連計画の把握【E】】

- ・新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- ・糸魚川都市計画区域マスタープラン
- ・第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- ・糸魚川市地域公共交通網形成計画
- ・いといがわ交通ネットワークビジョン
- ・糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト
- ・上越圏域広域都市計画マスタープラン
- ・第2次糸魚川市総合計画
- ・糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・糸魚川市駅北復興まちづくり計画
- ・糸魚川市公共施設等総合管理指針

【市民意向の把握【F】】

- ・自然等に代表される住みよさから5割が「住みよい」と回答している一方で、就労、医療、商業、交通の評価が低く、住みよさを実感できていない市民も多数（定住意向は市民の約7割）
- ・インフラ整備、学校教育施設整備は満足度・重要度が高い
- ・企業誘致、空家管理、移住やUターン、地元定着の促進、公共交通の利便性向上に関しては重要度が高いものの、満足度が低い
- ・土地利用の問題点では、中心市街地の賑わい喪失、買い物の不便さ、農地の荒廃などが多い
- ・土地利用規制に関しては、新たな開発地区の明確化、自然環境と都市環境の調和を求める声が多い
- ・土地利用では、市街地内未利用地の有効活用、自然環境の保全を重視
- ・住宅の生産、消費によるフロー型から空家等の有効活用などストック型への転換を重視
- ・既存商店街の活性化を求める声が多だが、幹線道路沿道への商業業務機能の誘導を求める声も多い
- ・既存産業団地への誘導による工業振興を求める声が多い
- ・農業に関しては、農地の集約化を求める声が多く、農地の観光・交流への活用への要望もある
- ・森林機能を活かした自然環境の活用、観光・レクリエーションの場としての活用を求める声が多い
- ・中学生の評価も同様であるが、約7割が暮らしよいくと感じる傾向が強い
- ・将来的な定住意向（住み続けたい、戻ってきて住みたい）としては約4割

課題につながる糸魚川市の現状まとめ（抜粋）

※現状まとめの抜粋箇所は、「課題3」と特に関係性が高いものを示す

【時代の潮流【A】】

- ・人口減少・少子高齢化社会への対応

【人口・産業【C】】

- ・出生数の減少、転出超過が顕著、流入流出では上越市、富山県新川地域との関係性が強い
- ・農業、漁業、商業は衰退傾向、工業は事業所・従業者が減少し製造品出荷額等が増加傾向

【上位・関連計画の把握【E】】

- ・新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- ・上越圏域広域都市計画マスタープラン
- ・糸魚川都市計画区域マスタープラン
- ・第2次糸魚川市総合計画
- ・第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- ・新糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト

【市民意向の把握【F】】

- ・自然等に代表される住みよさから5割が「住みよい」と回答している一方で、就労、医療、商業、交通の評価が低く、住みよさを実感できていない市民も多数（定住意向は市民の約7割）
- ・企業誘致、空家管理、移住やUターン、地元定着の促進、公共交通の利便性向上に関しては重要度が高いものの、満足度が低い
- ・既存商店街の活性化を求める声が多だが、幹線道路沿道への商業業務機能の誘導を求める声も多い
- ・既存産業団地への誘導による工業振興を求める声が多い
- ・農業に関しては、農地の集約化を求める声が多く、農地の観光・交流への活用への要望もある

都市の現状から見た課題

【課題3】多世代に魅力的な住環境や多様な産業で賑わうまちづくり

- ◇ 子どもから高齢者まで多世代の定住・移住を促す魅力的な住環境の形成 [A、C、E、F]
- ◇ 誰もが活躍できる魅力的・多様な産業による雇用の場の創出 [A、C、E、F]

※都市の現状から見た課題について、

[A]：時代の潮流、[B]：地勢・沿革、[C]：人口・産業、[D]：法適用状況、土地利用・都市施設整備状況
[E]：上位・関連計画、[F]：市民意向 に関する課題

※糸魚川市の現状まとめの赤字箇所は、「課題3」と特に関係性が高いものを示す

※上位・関連計画の把握について、「新潟県「夢おこし」政策プラン」から「第2次国土利用計画」は全ての課題に関わるものである

糸魚川市都市計画マスタープラン見直しについて

【糸魚川市の現状まとめ】

【時代の潮流【A】】

- 人口減少・少子高齢化社会への対応
- 安全・安心な都市・施設づくりへの対応
- 交流人口拡大への対応
- 環境にやさしい都市の構築
- 持続可能な都市経営への転換
- 地方創生、多様な主体による協働のまちづくりへの対応

【地勢・沿革【B】】

- 3市町の合併（H17）
- 自然環境や温泉など変化に富んだ資源、「糸魚川ジオパーク」の世界ジオパーク認定（H21）

【人口・産業【C】】

- 人口は減少し、高齢化や若年層の減少が顕著、小世帯化や核家族化が進行
- 地域別では能生地域の減少率が最も顕著
- 出生数の減少、転出超過が顕著、流入流出では上越市、富山県新川地域との関係性が強い
- 農業、漁業、商業は衰退傾向、工業は事業所・従業者が減少し製造品出荷額等が増加傾向

【法適用状況・土地利用・都市施設整備状況【D】】

- 都市計画区域は行政区域の12.8%、用途地域は行政区域の1.4%で県平均より工業系用途地域面積比が高い
- 土地利用は山林が約6割、用途地域内では住宅地・工業地ともに約2割
- 農地転用は、住宅・商業は用途地域内、工業は用途地域外に多い
- 都市計画道路や幹線道路、下水道、都市公園などのインフラ整備率は高い
- 北陸新幹線が開通し、糸魚川駅（新幹線駅）が開業（H27）

【上位・関連計画の把握【E】】

- 新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- 糸魚川都市計画区域マスタープラン
- 第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- 糸魚川市地域公共交通網形成計画
- いといがわ交通ネットワークビジョン
- 糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト
- 上越圏域広域都市計画マスタープラン
- 第2次糸魚川市総合計画
- 糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 糸魚川市駅北復興まちづくり計画
- 糸魚川市公共施設等総合管理指針

【市民意向の把握【F】】

- 自然等に代表される住みよさから5割が「住みよい」と回答している一方で、就労、医療、商業、交通の評価が低く、住みよさを実感できていない市民も多数（定住意向は市民の約7割）
- インフラ整備、学校教育施設整備は満足度・重要度が高い
- 企業誘致、空家管理、移住やUターン、地元定着の促進、公共交通の利便性向上に関しては重要度が高いものの、満足度が低い
- 土地利用の問題点では、中心市街地の賑わい喪失、買い物の不便さ、農地の荒廃などが多い
- 土地利用規制に関しては、新たな開発地区の明確化、自然環境と都市環境の調和を求める声が多い
- 土地利用では、市街地内未利用地の有効活用、自然環境の保全を重視
- 住宅の生産、消費によるフロー型から空家等の有効活用などストック型への転換を重視
- 既存商店街の活性化を求める声が多だが、幹線道路沿道への商業業務機能の誘導を求める声も多い
- 既存産業団地への誘導による工業振興を求める声が多い
- 農業に関しては、農地の集約化を求める声が多く、農地の観光・交流への活用への要望もある
- 森林機能を活かした自然環境の活用、観光・レクリエーションの場としての活用を求める声が多い
- 中学生の評価も同様であるが、約7割が暮らしよいと感じる傾向が強い
- 将来的な定住意向（住み続けたい、戻ってきて住みたい）としては約4割

課題につながる糸魚川市の現状まとめ（抜粋）

※現状まとめの抜粋箇所は、「課題4」と特に関係性が高いものを示す

【時代の潮流【A】】

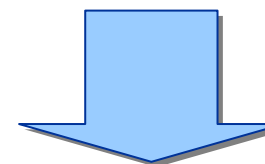
- 安全・安心な都市・施設づくりへの対応
- 持続可能な都市経営への転換

【上位・関連計画の把握【E】】

- 新潟県「夢おこし」政策プラン（新・総合計画策定中）
- 上越圏域広域都市計画マスタープラン
- 糸魚川都市計画区域マスタープラン
- 第2次糸魚川市総合計画
- 第2次国土利用計画（糸魚川市計画）
- 糸魚川市駅北復興まちづくり計画
- 糸魚川市公共施設等総合管理指針

【市民意向の把握【F】】

- インフラ整備、学校教育施設整備は満足度・重要度が高い
- 住宅の生産、消費によるフロー型から空家等の有効活用などストック型への転換を重視



都市の現状から見た課題

【課題4】市民が安全に安心して暮らし続けることができるまちづくり

- すべての市民が安全に安心して暮らせる防災機能などの確保・充実〔A、E、F〕
- 老朽化が進む公共施設やインフラの長寿命化〔A、F〕

※都市の現状から見た課題について、

〔A〕：時代の潮流、〔B〕：地勢・沿革、〔C〕：人口・産業、〔D〕：法適用状況、土地利用・都市施設整備状況
〔E〕：上位・関連計画、〔F〕：市民意向 に関する課題

※糸魚川市の現状まとめの赤字箇所は、「課題4」と特に関係性が高いものを示す

※上位・関連計画の把握について、「新潟県「夢おこし」政策プラン」から「第2次国土利用計画」は全ての課題に関わるものである